

改修向け素屋根受注

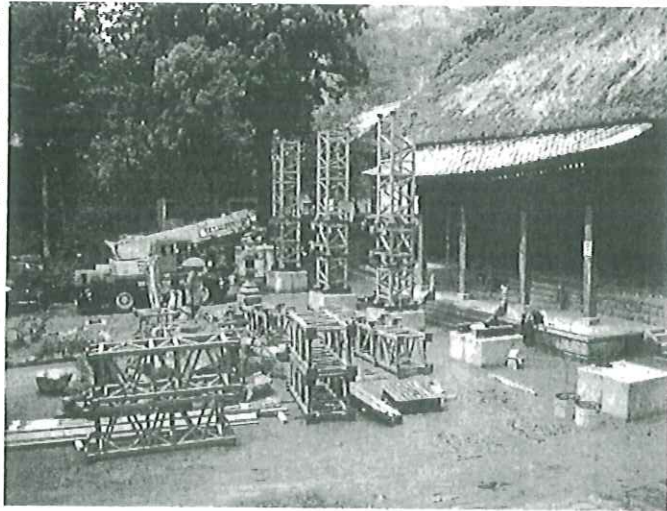
大型2物件 軽量鉄骨の特性評価

伊藤忠丸紅スチールAP

薄板建材を中心に各種建材製品を扱う伊藤忠丸紅スチールAP（本社II東京都千代田区、倉橋充社長）は、全天候工所用仮設物（素屋根）の設計・施工事業で大型物件2件を受注し、このほど施工を行った。受注案件は、高野山真言宗日向山宝城坊日向薬師（神奈川県伊勢原市）と東京流通センター・第一展示場（東京都大田区）で、ともに工事に使用する軽量鉄骨「APT

ラス」の軽量性、強度などの特性が評価され採用に至った。

日向山宝城坊日向薬師は716年開山の長い伝統を持つ寺社で、屋根・柱・床などの老朽化と虫害により薬師堂（本堂）の大修理が必要となり、素屋根設置が決まった。境内への搬入路が狭いため大型車の通行が難しく、小型、軽量で運搬が比較的容易なAPTラスを用いた素屋根工事が選ばれた。6月に工事



日向山宝城坊日向薬師で素屋根工事を受注

を終え、約5年半の期間設置する。東京流通センター・第一展示場は、施設の

駐車場を兼ねた屋上部分においてアスファルトの経年劣化による損傷が著しく、改修作業

時の降雨を防ぐために素屋根を採用した。軽量のAPTラスをスライドさせることで、屋上の4分の3を駐車場に使用しながら改修作業を進められ、さらに屋上への重量的な負担も抑えられるなどのメリットが評価された。設置期間は、6月から約8カ月間の予定。

同社は07年に素屋根事業の営業権を取得。主に重要文化財の改修時保護に利用されるケースが多く、浄土寺（広島県尾道市）などでの採用実績がある。